

青少年芸術劇場

歌舞伎「修禅寺物語」など

8月14日・吉原市民会館で公演

ことしもまた昭和52年度青少年芸術劇場（歌舞伎）が8月14日（日）午後1時から吉原市民会館で公演します。



この芸術劇場の歌舞伎は、文化庁および県、市教育委員会の共催で開くもので、演目は、岡本綺堂作、岸井良衛演出の「修禅寺物語」一幕三場と河竹黙阿弥作の新歌舞伎十八番のうち「船弁慶」の二つが上演され

ます。出演者は修禅寺物語におなじみの岩井半四郎（夜叉王）、大谷友右衛門（桂）など。また船弁慶には市川辰之助（静・知盛のツボ）、半四郎（舟長）、市川銀之助（弁慶）など一行67名が来館予定。

入場者は、14才から19才未満の市内に住む青少年が対象です。希望者は7月15日までに市教育委員会社会教育課（内線454番）へ申し込んでください。入場は無料です。

「私が見た富士市」の 原稿を募集します

「私が見た富士市」というテーマで、あなたの思っているまま、感じているまを300字ぐらいで原稿およびあなたの写真（白黒）を添えてお寄せください。

▶あて先…市役所広報広聴課

電話51-0123（内線528番へ）

▶しめきり…7月30日まで

原稿には、必ず住所、氏名、電話番号をはっきり書いてください。

「さいばい委員になって」

ぼくは、去年さいばい委員でした。いつも家の庭は父が草を取りしょう毒をし、ひりょうをやってかわいがっています。

それを見てよーし。今度はぼくが学校の庭の手入れをし、大ぜいの人達が喜ぶ緑をふやそうと心に決め、さいばい委員になりました。でもぼくのクラスは男子がぼく1人でした。

「ちえッ。」

なんだ。こんなことなら、ほかの委員のほうがよかったなあ。とその時はこうかいの気持でいっぱいでした。

でも、たのしいこともありましたそれは、委員の人達がとても親切だったことです。

くわをかしてくれたり、牛のふんを運ぶ時は、くさくていやなのにいやな顔もしないで、たいへんな

仕事を進んでひきうけてくれました。仕事
この植木
に大きく
ろうかと
どんな花
かなと考
えは、と
てもつ
ありまし
るな！」
をしても、
んにはい
っかくあ
せかや
っと花を
に、それ
をほん
とうに
そうだ
と思



市長賞

丘小学校五年
稲葉泰弘

第5回緑化作文コンクール入賞作品

たりした時
たのしか
らいこと
それは「は
とたてふ
だ平気で
かだたり、
せっきな
がら、さ
かせたの
おられる
と花がかわ
いいつら
かった
みんなが
力を合
わせな
がら、そ
だてた
のが、つ
ぼみをも
ている
時、大
雨がふ
ったり、
風にふ
かれた
りしな
がらも
美しく
さいて、
みんな
を楽し
ませて
くれた
時は、
ほん
とうに
う

れしいなと思った。

そして、緑は、目のためにいいし緑を見ていると、なんとなくおちつき心が休まるような気がする。こんな緑が、みんなの手によってもっとふえるといいなと思う。

草木は、口をきけない。

話もしない。

動くこともできない。

しかし、それが、できる物以上に人々の気持ちを動かしてくれるのだ。

それは、毎年、春になると、新芽を出し、緑の葉をしげらせ、美しい花をつける。

夏には、日かげを作り、みんなを休ませてくれる。

秋には、おち葉になったり1年中変化し、すばらしいと思う。

この美しい自然の力へ、さらに、ぼくたちが、協力しあい、緑を、もっとふやしたいと思う。